

GO

To POLAND

留学先

ポーランド／アダムミツキェヴィチ大学
(2025.2～2025.7)

教育学部 特別支援教育専攻

後藤 千聖さん

兵庫県出身。特別支援学校と英語の教員免許を取りたいと考えていたところ、複数の教員免許が取得できる島根大学を知り、入学。大学2年生の時にアメリカで一か月間のホームステイを経験し、もっと英語が話せるようになりたいと思ったことから留学を希望するよう。



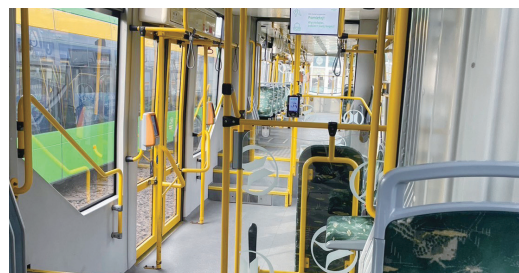
インターナショナルな環境で、子どもたちのために働きたい



大学という整った環境でしっかりと授業が受けられ、また他のプログラムと比べて、留学費用を抑えながら長期間の留学ができる「交換留学」に興味をもった後藤さん。物価が安く安全な国だと感じたこと、ヨーロッパの中心に位置して旅行がしやすいと考えたことから、ポーランドを留学先を選びました。留学するまではオンライン英会話を活用して、自主的に語学力を磨き続けていたそうです。

「留学して一番良かったのは、世界中に友人ができたことです」と後藤さん。共通言語である英語を使ってたくさんの会話を重ねただけでなく、さまざまな国の文化や背景を知ることができました。授業では、英語のみで行うプレゼンテーションに挑戦し、語学力とコミュニケーション力の向上を実感したそうです。

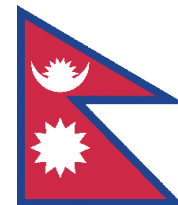
今後はもう一度ポーランドに戻り、大学院に進学するのが目標。そのために今は、英語力をさらに伸ばす努力をしているところです。「将来はインターナショナルな環境で教員として働き、さまざまな国の子どもたちと関わるのが目標です」と、キラキラとした目で話してくれました。



どこへ行くにも利用していたトラム。知らない人から声をかけられて会話を楽しんだり、偶然友人と遭遇したりと、留学中の思い出がたくさん詰まっています。トラム内は清潔で、居心地も良かったそうです。



休日には、ヨーロッパ各国を旅行。これはトルコ、ドイツ、香港、韓国、日本という国際的なグループで、ポーランドを旅行したときの写真です。非常に楽しく「どの国出身かなんて関係ない」と強く感じたそう。



BEYOND

自然科学研究科創成理工学専攻

アチャリヤ アシスさん

ネパールにあるトリブバン大学の学部および修士課程で、エンジニアリング地質学を専攻。2020年に本学大学院自然科学研究科環境システム科学専攻に入学し、博士前期課程を修了した後、2022年から博士後期課程に進学。在学中は、学業面と経済面の両面で支援を受けられる文部科学省の奨学金を活用し、研究に専念することができた。

From NEPAL

出身国

ネパール
(2020.10～2025.9 島根大学に留学)



母国と日本の学生を繋ぎ、より安全な社会の構築に貢献したい。

ネパールは、地震、地滑り、洪水、斜面崩壊などの災害が頻繁に発生する山岳国。母国でエンジニアリング地質学を学んでいたアシスさんは、自然災害研究の分野で世界的にも高い評価を得ている日本で、さらに学びを深めたいと留学を決意。地球科学分野における優れた教育、経験豊富な教員、そして充実した研究施設が揃っていることが決め手となり、島根大学大学院を留学先に選びました。

入学後は、地滑りと地下水モニタリングについて研究。「高度な研究機会と先端的な研究施設に恵まれ、新しい学びを得ながら自分の視野を広げることができました。また国際的な人的ネットワークを築けたことで、個人的な成長にも繋がりました」と振り返ります。

「今後は、日本で得た知識とスキルを活用しながら土砂災害リスク軽減に関する研究を推進し、より安全な社会の構築に貢献したい」と意気込むアシスさん。将来的には日本の大学で教員として働き、ネパールと日本の学生が災害研究に関する知識と経験を共有する機会を創出したいと考えているそうです。



博士号授与式に出席するために、家族が訪日。大切な学術的節目を家族とともに日本で迎えることができたのは、アシスさんの留学生活の中で最も思い出深く、意義あるものに。



こちらは、修士課程1年生の頃の写真。斜面モニタリングのために深さ50mのボーリング孔を掘削し、その中に複数の光ファイバーを設置。実地での作業経験は、今後の研究に大いに役立ちそうとのこと。